

令和元年度 浄水小学校 学校教職員自己評価

番号		評 価 項 目	今年度	昨年度
5	学校教育目標	地域の特色や学校の実態に即した学校教育目標を設定し、児童生徒・保護者・地域の理解を得ている。	3.0	3.2
6	特色ある学校づくり	特色ある学校づくり推進事業が児童生徒の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されている。	3.0	3.2
7	施設管理	施設・設備の点検・管理を日常的に行い、その機能を十分に生かして教育活動に活用している。	2.9	3.2
8	家庭・地域連携	保護者・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを進めている。	3.2	3.3
9	学習指導	学年の学習目標や学習内容を知らせている。	3.0	3.3
10	学習指導	体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れた授業を展開し、児童生徒の学習を充実させている。	2.6	2.9
11	学習指導	個別指導、グループ指導やＴＴ・少人数指導等の工夫を積極的にを行い、個を生かす学習指導を充実させている。	2.7	3.0
12	学習指導	指導方法や教材の工夫等により基礎基本の定着度を向上させている。	2.9	3.0
13	学習指導	子どもの学習状況について、懇談会等で的確に説明している。	2.8	3.3
14	道徳教育	学校教育活動全体を通じて、体験活動やボランティア活動を取り入れ、心の教育を充実させている。	2.9	3.1
15	教育相談	児童生徒との日常のふれあいを大切にするとともに、教育相談を計画的に実施し、児童生徒理解に努めている。	3.1	3.1
16	特別活動	学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等を活用し、児童生徒の自発的・自治的な活動の充実に努め、成就感、感動を味わわせている。	3.0	3.2
17	生徒指導	基本的生活習慣の定着や規範意識の向上のために、具体的な方策を講じている。	2.5	2.9
18	生徒指導	いじめ、不登校、触法行為などの予防と早期発見、早期対応に努めて、職員の共通理解のもと組織的に対応している。	3.0	3.1
19	健康教育	心身の健康に留意し、主体的に健康づくりや体力づくりができる態度を身につけさせる指導を充実させている。	2.9	3.1
20	学校図書館教育	図書館の整備に努めるとともに、学校図書館司書との連携を図り、豊かな心を育む読書活動を進めている。	3.0	3.2
21	情報教育	情報活用能力を高めるとともに、情報モラルを身につけさせている。	2.8	2.7
22	安全教育	自らの安全を守るための正しい知識と行動に関する指導を計画的に行い、意識の高揚を図っている。	3.2	3.1
23	教育課程	学習指導要領をふまえ、各学校の指導計画に基づいて、適切に実施している。	2.9	3.1
24	家庭・地域連携	地域・保護者ボランティア等を継続的に活用し、地域活性化に視点をおいた地域ぐるみの教育活動の展開に努めている。	3.2	3.3
25	家庭・地域連携	保護者や地域・近隣の園や学校、関係機関と連携した危機管理マニュアルを作成し、運用するよう努めている。	3.0	2.9
26	学校経営	教育活動推進のために、教職員の共通理解が図られ、学校が組織として機能している。	2.8	3.0
27	学校評価	学校評価の結果を教育活動の改善・充実に活用している。	2.8	3.0
28	園・小・中連携	こども園と小学校、小学校と中学校、のように近隣の園小中との指導の連携に努めている。	2.9	3.0
29	特別支援教育	特別な支援を要する児童生徒の状況を把握し、保護者・関係機関との連携を踏まえた個別の支援計画を立て、全校体制で支援している。	3.0	3.1
30	健康教育	健康な身体づくりに必要な食生活の充実に関する指導を、計画的に行っている。	3.5	3.4
31	国際理解教育	学習や行事等を通して共生の心を育てるとともに、小学校においては、小学校外国語活動を充実させている。	3.0	3.1
32	環境教育	主体的に環境保全に取り組む態度の育成に努めている。	2.5	2.7
33	キャリア教育	望ましい勤労観、職業観がもてるよう、各学年に応じた系統的な指導を行っている。	3.1	2.9
34	教員育成	学校全体で、テーマを明確にし、組織的・計画的・継続的に現職教育研修が進められている。	2.8	2.9
35	教員育成	非違行為撲滅のため、計画的、継続的に職員が意識できるような取組が行われている。	3.1	3.3
36	教員育成	新たな学びのスタイルの推進のため、学校全体でＩＣＴ活用能力の向上に努めている。	3.0	2.8
37	多忙化解消	学校全体で、多忙化解消に向けた取組を推進している。	3.3	2.9

昨年度の自己評価より0.3ポイント以上下がった項目は太字（9, 10, 11, 13, 17）

昨年度より、ポイントが上がっている項目は、斜体（21, 23, 25, 30, 33, 36, 37）

・全体的に昨年度よりポイントの低い項目が多い。自信がない若手教員が多いのが一因だと考えられる。児童とともに、自己肯定感の向上に努める必要性を痛感する。

・昨年度より大きくポイントが下がった学習指導（13）については、後期の懇談会を希望にしたことが要因と考えられる。

・生徒指導、環境教育（2, 5）には、さらに学校内での研修の機会を増やし、若手教員が自信をもって指導できるようにしたい。